

# 「祝! 同窓生が教授・准教授就任」

この度、2期生の福永哲先生が聖マリアンナ医科大学 消化器・一般外科 教授に、6期生の金澤丈治先生が自治医科大学地域医療学センター兼耳鼻咽喉科学教室 准教授に就任されました。

我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について寄稿していただきました。

## 消化器癌に対する高質な外科診療をめざして

聖マリアンナ医科大学 消化器・一般外科 教授

福 永 哲 (2期生)



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、ご無沙汰しております。

私は2010年4月より聖マリアンナ医科大学の消化器・一般外科教授として勤務しています二期卒業（一期入学）の福永です。

卒業と同時に母校を離れ、以降接点の少ない同窓生の動向を知る唯一?の情報誌である「南風」に寄稿のご依頼をいただき驚きましたが、現況報告をかね一言ご挨拶をさせていただきます。

卒業後、当時脳神経外科教授であった六川二郎先生に胃癌で高名であった順天堂大学の榊原宣先生をご紹介いただき、順天堂大学の旧第一外科で研修させていただきました。研修後は順天堂大学浦安病院外科に入局し、故八木義弘教授、木所昭夫教授、現福永正氣教授に消化器外科と救急診療をご指導いただきました。当時は消化器癌の外科治療といえば、徹底した拡大郭清と合併切除の時代で、ここであらゆる拡大手術と周術期管理を学びました。またこの時期に術後の肺障害に興味を持ち、この研究のため米国ピッツバーグ大学小児病院の本山悦郎先生のもとに留学させていただき、基礎研究の指導を受けました。

この留学の1994年前後は米国や日本で消化器外科領域に内視鏡外科がまさに導入されんとする時期で、外科に百年に一度の大きな変革の波が押し寄せていました。それまで開腹や開胸手術による

「拡大手術、拡大郭清＝癌の根治」を信じて進んできたため当初は半信半疑でしたが、いざ始めてみるとこの内視鏡外科のもつ可能性にすっかり魅了され、いつのまにかこの開発と普及がlifeworkになってしまいました。振り返ると「拡大手術（過大侵襲）→術後合併症→低侵襲性の追求→内視鏡外科」と当然の帰結のようにも思えます。

その後この胃癌に対する内視鏡手術を癌研病院に導入するため癌研有明病院の現副院長の山口俊晴先生にお呼びいただき2004年に癌研有明病院消化器外科（旧癌研）へ移動しました。そこでその立ち上げと教育にたずさわり本年4月に現職を拝命し任に着きました。

専門である胃癌はその治療成績が向上したとはいえ依然として本邦の癌死の上位を占めています。この治癒率向上を目指して、古い概念にとらわれることなく常に最新の治療手技を積極的に取り入れ、より高質で多角的な集学的治療を行いたいと考えています。また昨今外科医不足が問題となっていますが、これまで多くの研修生や見学生を受け入れ指導してきた経験をもとにこの高質な医療を提供できる若手外科医の育成にも力を注いでいます。卒業生で消化器外科に興味がある方は見学にいらして下さい。

最後に、同窓会の皆様方のますますの御活躍と御発展をお祈り申し上げます。